

12

ストレプト LA NX「生研」の有用性の検討

◎堀内 美里¹⁾、川端 直樹¹⁾
市立敦賀病院¹⁾

【はじめに】

連鎖球菌はヒトの常在菌として存在するものが多いが、一方で咽頭炎や壊死性筋膜炎、髄膜炎など多様な疾患の起因菌ともなり得る。検査室レベルの同定には溶血性やLansfieldの群抗原、生化学的性状が用いられる。現在、Lansfieldの血清群別にはスライドラテックス凝集反応を用いたキットが主流であり、A群、B群、C群、D群、F群、G群の6群に分類可能である。今回、デンカ生研株式会社が改良したストレプト LA NX「生研」について性能評価を行ったのでこれを報告する。

【対象と方法】

2015年～2018年に当院を受診した患者の検査材料から分離した連鎖球菌203株を対象とした。203株のうち117株はマイクロバンクに懸濁後、-80℃で保存しておいたもの、86株は新鮮分離菌株を使用した。現在当院で使用しているプロレックス「イワキ」レンサ球菌(イワキ株式会社)を比較対照品として一致率を確認した。

【結果】

ストレプト LA NX「生研」とプロレックス「イワキ」レンサ球菌での判定一致率は、A群96.4%、B群98.3%、C群100%、D群100%、F群87.5%、G群94.5%、陰性63.2%、全体一致率は93.1%と良好な一致率を示した。また、新鮮分離菌株のみにおける一致率は全ての群で100%であった。今回検討したストレプト LA NX「生研」はプロレックス「イワキ」レンサ球菌と比べても遜色ない性能であった。

【結語】

連鎖球菌による感染症の適切な診断や治療を迅速に行うための一つ的手段として血清群別を行うことは重要であり、今回検討したストレプト LA NX「生研」は臨床の現場で使用するのに十分な性能を有していた。また、必要な資材がすべて同封されている点やスポイトで攪拌を行う点など、使い易さや安全面に配慮されていた。

連絡先：0770-22-3611（内4245）